

一学校教育目標一

よく学び 心豊かで

たくましい上間っ子

- (1) よく考え進んで学ぶ子
- (2) 明るく思いやりのある子
- (3) ねばり強くたくましい子

学校便り

第20号

R5年9月7日(木)  
 那覇市立  
 上間小学校  
 発行責任者  
 校長 宮里 寧  
 TEL 917-3327

# 上間っ子

## お話朝会「応援の目」と「裁きの目」 ～平気で失敗できる仲間を作ろう～

テレビやSNSのコメントは、基本的に批判が多いです。もちろん、世の中の人に警告を發し、教  
 え導くことがマスコミの役割ですが、中にはふさわしい程度をこえて助長したり、言いたい放題、  
 といった感じを受けます。また、お笑い番組の多くは「ツッコミ」という他者批判が主となっていま  
 す。こうした番組に接する時間が長い子どもたちは、どうしても他人への見方が「批判的」になっ  
 てしまう傾向にあります。簡単に言うと「文句癖」がついてしまっています。だから、友だちへの目も厳  
 しくなりがちです。いわば、テレビのマスコミやSNSのように「裁きの目」が常態となってしま  
 っています。しかし、失敗を繰り返しながら成長し合っていくのが学級集団です。できれば、「平気  
 で失敗できる仲間」がいいです。裁けば裁かれる。「裁きの目」は両刃の剣で、自分の行動まで規制  
 してしまいます。いじめの元となる「異質感」もこの「裁きの目」から生まれます。

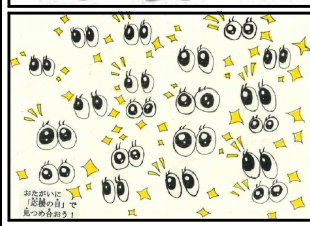
できれば、クラスはお互いが「応援の目」で見つめ合うものにしたいです。そこから一人一人の寛容  
 な心も生まれてきます。そこで、朝会で次のように話をしました。

「今のクラスはどんな雰囲気のクラスですか?」「楽しいクラス」「協力し合えるクラス」「励ま  
 し合えるクラス?」「もし、みんながこんな雰囲気を持ったクラスだったら、どうですか?」笑いと  
 ともに、「いやだー」「こわい」という声が聞こえます。「そうよね。みんながみんながこんな怖い目  
 をして、みんながみんなを裁いているようなクラス、いやですね。」「これを『裁きの目』と言いま  
 す。「いつも人を監視してあら探ししている目です」「こんなこともできないのか」「へただなあ」「はは失敗しやがった」って思いながらお互いを見  
 つめています。



「これでは、みんな失敗を恐れるようになってしまいます」

「そうじゃなくて、上間っ子は、これでいきましょう!」



「お互いが『応援の目』をもって見つめ合うクラス」「たとえ、つまず  
 いている子がいても、失敗する子がいても『がんばれ、がんばれ』『ドン  
 マイ、ドンマイ』『失敗も何のその』という目だよ」「いいよね!」「それ  
 で、誰かががんばったら、みんなで大きな拍手です」「こうした『応援の目』  
 でみんながみんなを応援し合って一年間を終わらしましょう!」「寛容」の心  
 は、お互い応援し合い、励まし合う中で育まれていきます。いつもそん

な集団にいられるとは限りませんが、そんな目を持つ上間っ子にしたいです。そうしたことを大切  
 にする上間っ子になりましょう。



## 島の舞 選手後押し 小中学生披露

バスケットボール・ワールドカップは沖縄での全日程を  
 終え、男子日本代表は来年のパリ五輪出場を獲得しま  
 した。さて、沖縄アリーナでの日本代表の試合開始前、  
 オープニングセレモニーに県内の子どもたちが伝統的エイ  
 サーや琉球舞踊と現代的ダンスを融合した演舞を披露し  
 たのをご存じでしょうか。6年の「備瀬一香」さんが代表  
 で出演しました。みんなで毎週練習してきた成果を發揮  
 できてうれしかったと話していました。